

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.69 (2021.12.27)

令和3年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
生産性の向上で働き方改革の実現
～和賀組さんで良かったといわれよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

今年も残すところわずかとなりました。今年も岩崎水神社初丑祭りは新型コロナの影響で中止となりましたが、氏子の皆さんのみによる神事が12月7日に行われ当社を代表して参加して参りました。来年には3年ぶりに恵比寿俵の奉納ができることを願っております。協力業者様との懇親の場でもあった恵比寿講も中止となりましたが、今年は部門ごとの忘新年会が開催されており、久しぶりに社員の皆さんとの懇親の場が持っております。

年末といえばお歳暮の季節ですが、今年は虎屋の羊かんを数社から頂戴いたしました。虎屋は室町時代後期に京都で創業し明治になって東京に移っています。虎屋のホームページにある「年表」には、1805年に第9代光利により策定された「掟書（おきてしよ）」というものが紹介されております。それによると「1788年(天明8年)の大火以降、京都の経済は停滞を余儀なくされ虎屋の経営も悪化、危機に瀕した経営を立て直すため店制改革に臨み、店員が守るべき基本的な姿勢や考え方、行動規準を示した「掟書」を策定した」とあります。

第17代社長で昨年6月に会長となった黒川光博氏はある本の中で「掟書」についてこう述べておりました。「儉約を第一に心掛け、良い提案が有れば各自文書にして提案する事、お客様が世間の噂話をしてもこちらからはしない、子供や女性のお使いであっても丁寧に応対して冗談は言わぬことなど現代に通用することがいろいろと書いてある。この掟書はもともと遡る事さらに200年の天正年間(1580年ごろ)に書かれていたものを9代目が書き改めたもので、それが現代にも通用することを考えると、ものの真理や商売の心得はいつの時代も変わらないのだと思います」

一方で黒川氏はこうも述べております。「変えてはいけないものがある一方で、変えていかなければならないものもある。虎屋のように古くからある店は味も不変だろうと多くの方が言うが、私は味に不変ということは無いだろうと思う。やはりその時代時代に合った味というものがあるのではないかと。例えば戦後甘いものが不足している中で感じる甘さと、現代のように和洋菓子が豊富にある中での甘さというのは少し違う。和菓子の味は時代によって変えていかなければならない私は思う。」

また業界紙のインタビューで18代社長の黒川光晴氏は、「500年続く歴史の中で、守るべき伝統の一つが“品質”であるのならば、未来を見据えて変えていくべき部分もあるはずだ。製法にしても原材料にしてもこだわり過ぎる必要はないと思っている。ある時代に良かったものが別の時代には良くないという風に全く変わってしまうことがある。盲目的になって変化を見過ごしてしまうと発展性がなくなってしまう。流通技術も向上し、昔なら手に入らなかった素材が良い品質で手に入るようになった。その素材で菓子を作った時に、お客様が喜んでくださるのであれば、そこはドンドン変えていっていいことの一つだ」と応えておりました。半世紀以上続く老舗虎屋、まさに「不易流行」の神髄を教えて頂いた記事でありました。良いお年をお迎えください!!

知事との懇談会



12/7に秋田県商工会議所連合会と佐

竹秋田県知事との懇談会が開催されました。湯沢商工会議所からは来年4月から雄勝校で行われる「測量」科目の充実等を要望しました。

鳥インフル



11月10日に横手市内の養鶏場で発生した高病原性鳥インフルエンザ。その防疫措置として車両の消毒作業に協力したとして、秋田県知事より和賀・田村・皆瀬・進和JVに、感謝状を頂きました。従事された皆様ご苦労様でした。

飲酒運転撲滅

湯沢商工会議所と湯沢警察署が飲酒運転撲滅に関する協定を結び、12月19日のさきがけ新聞に紹介されました。徐々に飲み会も増えております。飲酒運転は絶対ダメです。

